

2 校種間の接続

(1) 話すことの指導の接続

 **こんな実践**

児童が主体的に質問したり、質問に答えたりするためには、教師が「やってみせる」ことが大切です。Small Talk を継続して行う中で、教師は児童が英語で言いたい表現を拾い上げたり、話す内容に共感したり、おどろいたりしながら聞くことで、児童の話す意欲を高めることを期待して行った実践です。

実践学校 A 小学校

実践学年 6 学年

実践時期 1 月中旬

単元・題材名

学習指導要領との関連 ウ 話すこと [やり取り] (ウ)

- HRT と ALT のやり取りをきっかけにして Small Talk に繰り返し取り組みました。HRT と ALT は児童同士のやり取りを聞き、児童が英語で言いたいことを引き出してから、もう一度児童に Small Talk をするように促しました。繰り返し同じ話題で話すことで、言いたいことを言い直してみたり、やり取りから得た言葉を取り入れてみたりするなど、はじめは自分から話すことに慣れない児童も、少しずつ話す内容を広げていこうとする姿がありました。

**ここがポイント！**

- 身近な話題や季節の話題など、児童が興味をもつ話題を提示しましょう。
- 繰り返し行うことで、児童に「英語の言い方を知りたい」という必要感が生まれます。既習の表現に置き換えたり、言い方を児童同士で考えたりして表現を増やしていきましょう。
- 学習した内容を扱ったとしても児童がすぐに話せないのは自然なことです。長い時間をかけて児童の表現を増やしたり、話す意欲を高めたりすることを意識しましょう。

HRT : I like animals.
 ALT : Oh. Me too.
 HRT : What is your favorite animals?
 ALT : I like cats.
 HRT : Why?
 ALT : It's small. I can take it.
 HRT : That's nice.
 ALT : What is your favorite animals?
 HRT : I like gorillas.
 ALT : What? Why?
 HRT : Gorillas are big and strong. It's cool.
 ALT : Wow. I see.
 HRT : Let's talk about favorite animals.
 S1 : What is your favorite animals?
 S2 : I like cats.
 S1 : Why?
 S2 : かわいいから。
 S1 : OK.
 S2 : What is your favorite animals?
 S1 : I like tiger.
 S2 : Why?
 S1 : Cool.
 (Small Talk を終えて児童全体と振り返り)
 HRT : S2 さん。英語で言いたいことがなかった。
 S2 : かわいって英語で何て言うか。
 S3 : Cute!
 HRT : It's cute. Good. つづけて聞きたいことはなかった。
 S4 : ねこが好きという人に、何のねこが好きか聞きたい。
 HRT : そんなとき Do you like～? は使えそう?
 S5 : Do you like アメリカンショートヘア? とか。
 HRT : Great! ペアを変えてやってみよう。
 S4 : What is your favorite animals?
 S2 : I like cats.
 S4 : Good. えーっと, Do you like black cat?
 S2 : うーん。No.
 S4 : Okay. Thank you.

まとめ

表現自体に正確さを欠くものの、自分の思いを伝えたり、相手の伝えたいことを受け止めたりする経験を小学校の段階で十分に積んでいきます。スモールトークなどを通して、自分を伝え、相手のことを知るといった言語活動を中学校でも引き継いで行くことは、子どもの表現力をさらに高めていく上で重要です。